

Tasmania Island Overland Track 縦走報告(前編)

M3 荒川 晶

①Overland Track とは

オーストラリアでの短期留学の後、メルボルン沖合にあるタスマニア島の Overland Track と呼ばれるトレッキングルートを手2/24(Mon)〜手3/2(Sun)の7日間掛けて縦走してきました。

Overland Track とは、島内中部にある Mt.Cradle National Park から Lake St.Clair National Park までのおよそ 70km に渡るトレッキングルートです。先の Milford Track の場合と同様、これらの国立公園は国が強い権限を持って管理しています。

このため、Peak Season である 10/01〜翌 05/31 の間に個人でこのトレッキングルート歩く場合、

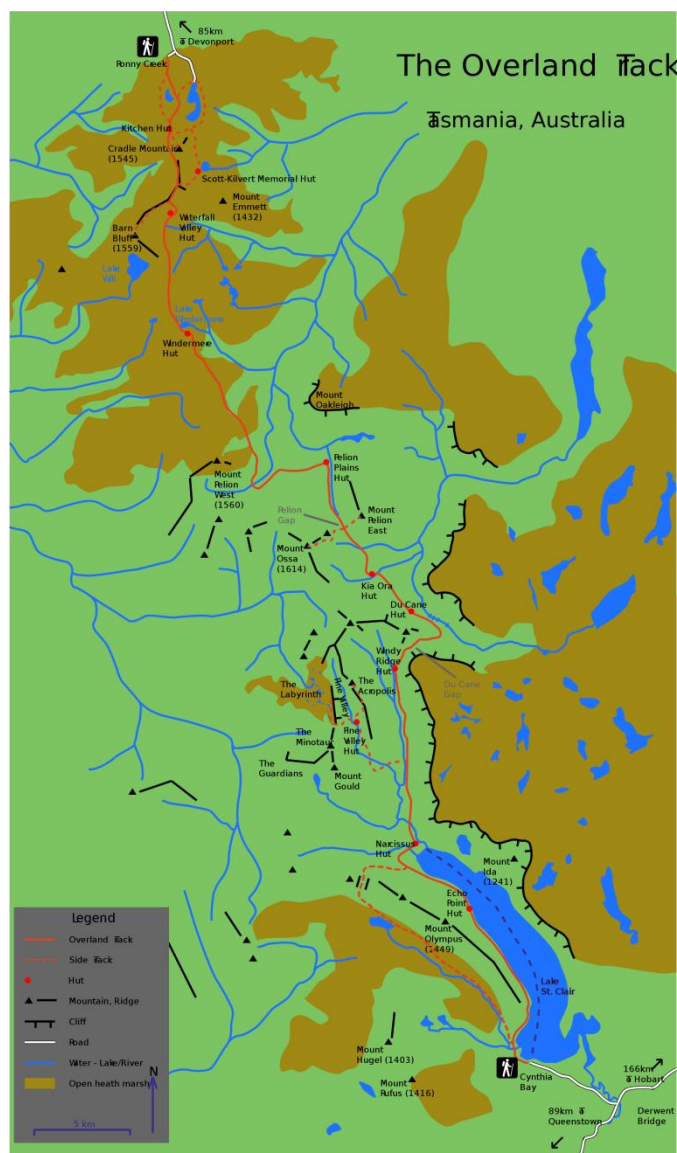
①北から南への一方通行

②入山者は 1 日 40 人以内

③通行料として、国立公園への入園料\$30 の他に通行料\$200 を支払うことの 3 つの条件が課せられます。

先に「個人で」と書きましたが、この他にもツアー会社がキャンプでのトレッキングツアー、またこの公園内に許可を得て幾つか私設の山小屋を持つ会社が、食事寝具等全て込のツアー(相当高額になるが)を企画しています。今回の山行中には前者は見かけませんでしたが、後者は 15 人ぐらいのグループが歩いているのを度々目にしたので、おそらくそれに相当するのでしょう。なお私設の山小屋は一般には開放されておらず、また目につきにくい位置にあるので、5 つある小屋のうち私は 2 つしか見つけることが出来ませんでした。

個人で歩く場合は、コース途中に設けられている幾つかの小屋(以下 Hut と表記)に泊まるか、その付近の Campsite でテントを張るかの何れかになります。Hut の設備は日本の避難小屋相当で、寝具食事調理器具は全て持参、水トイレの設備あり、管理人が常駐(しているかと思っていたが、一部の小屋は駐在していないようだった



た)。収容人数は Hut 毎に大きく変わり、最低 16～最高 36 まで様々。また一旦縦走を開始すれば日程は好きに組んで良い。その事や、もともと小屋の定員が少なく設定されているために、小屋に全員が宿泊できないので、Hut 泊の予定でも必ずテントを持参するように HP 上で指示されています。

今回私が歩いていた間はやや閑散期だったようで、Walker の数はおよそ 1 日あたり 15 人。そのため小屋も混雑することなく快適に過ごすことが出来ました。

②概要・感想

Overland Track は Australia 国内でも相当有名のようで、留学先でも実習が終わったら Overland Track を歩く予定だと言ったら大体の人は That's Great. Enjoy your walk! と言ってくれました。

また、この Overland Track はメインルートの他に、付近の山々に登ったり、湖を訪ねたり、溪谷にある滝を鑑賞する Side Trip が幾つも準備されています。1 日の行程は 4～5 時間程度と、日本の感覚からすれば、かなりゆとりを持って組まれているので、メジャーな Mt.Cradle、Mt.Ossa の 2 つのピークは天候にさえ恵まれればほぼ全員が立ち寄ります。私は事前に色々調べて、このほか Barn Bluff、Mt.Oakleigh、Mt.Acropolis の 3 つの山に登ることが出来ました。

この地域全体は安定陸塊に属しているため、浸食輪廻の壮年期に相当する日本の山々とは違い、概ね地形全体は準平原で平坦です。その中に残っている山は火山岩等の岩の塊が水の浸食作用から取り残されて残っているようで、ピークまでのアプローチは長く非常に平坦地を行くものの、ピーク直下からの 1 時間余りは岩場の急登が続くといった様子でした。また山頂直下も非常に岩がゴロゴロしているので、日本の様に山頂に小屋があることもなく、またご来光を眺めに山頂に登る文化も存在していなさそうでした。

先日歩いた New Zealand での経験や、1 か月の留学もあり、大体この国の人たちのリズムや生活ペースが分かってきたので、以前よりも大分リラックスして歩くことが出来たのではないかと思います。天気に関しても中 2 日ほど低気圧の接近に伴い雨に降られましたが、幸いにも山頂を踏む日は比較的好天に恵まれたので良かったです。途中 Barn Bluff 山頂付近でレンズフードを岩場に落としてしまったのと、カメラの予備バッテリーを多めに準備してきたにも関わらず、日本出国後 1 度も充電しなかったため殆ど残量が残っていなかったこと以外はほぼアクシデントもなく計画通りにスケジュールをこなせたので、充実した山歩きの 1 週間となりました。

最後にこの Trekking に合わせて日程を調整してもらった、同級生の T 君と K 君には改めて感謝の意をささげます。ありがとうございました。

③実際の行程

2/24(Mon) 天候：晴れのちガス 行動時間：2 時間 45 分

Mt.Cradle 国立公園入口 15:30～(シャトルバス)～15:45 Ronny Clerk

Ronny Clerk 15:45～16:40 Crater Lake 16:50～17:30 Marions Lookout 17:50～Kitchen Hut 18:30(幕営)

2/25(Tue) 天候：晴れのち曇り 行動時間：10 時間 30 分

Kitchen Hut 07:20～08:20 Mt.Cradle 09:10～10:05 Kitchen Hut 10:20～12:20 Waterfall Valley Hut 13:15～15:15 Barn Bluff 15:45～17:50 Waterfall Valley Hut(Hut 泊)

2/26(Wed) 天候 曇り時々雨/昼過ぎ晴れ 行動時間：5 時間 30 分

Waterfall Valley Hut 08:10～09:25 Lake Will への分岐点 09:35～10:35 Inns Fall 10:50～11:50 分岐点
12:00～13:05 Lake Windermere 湖畔 13:25～13:40 Windermere Hut(Hut 泊)

2/27(Thu) 天候：曇りのち晴れ 行動時間：11 時間

Windermere Hut 07:10～08:25 Patons Lookout 08:40～10:15 Pelion Creek 10:25～11:20 Frog Flat
12:00～13:20 New Pelion Hut 13:50～15:50 Mt.Oakleigh 16:30～18:10 New Pelion Hut(Hut 泊)

2/28(Fri) 天候：快晴 行動時間：8 時間 45 分

New Pelion Hut 07:50～08:10 Old Pelion Hut 08:20～08:40 New Pelion Hut 08:50～10:30 Pelion Gap
10:45～12:15 Mt.Ossa 13:30～14:45 Pelion Gap 15:20～16:35 Kia Ora Hut(幕営)

3/1(Sat) 天候：快晴 行動時間：12 時間

Kia Ora Hut 06:50～07:50 Du Cane Hut 08:00～08:30 D'Alton&Fergusson Falls 09:50～10:10
Hartnett Falls 11:00～11:50 Du Cane Gap 12:00～12:35 Bert Nichols Hut 13:05～Pine Valley Track
の分岐点 14:50～16:25 Pine Valley Hut 16:45～17:35 Labyrinth Walk 途中の Lookout 17:50～
18:50 Pine Valley Hut(Hut 泊)

3/2(Sun) 天候：曇りのち晴れ 行動時間：8 時間 40 分

Pine Valley Hut 06:20～08:30 Mt.Acropolis 09:00～Cephissus Falls 11:00～11:10 Pine Valley Hut
11:50～分岐点 13:20～14:35 Narcissus Hut 14:50～15:00 Ferry 乗場
Ferry 乗場 15:45～(フェリー)～16:30 Lake St.Clair 入口 17:25～(路線バス)～20:05 Hobart 市内

④本文

<1 日目>

2/24 の昼過ぎ、遙々南部の Hobart から 5 時間余りのドライブを終えて、Cradle Mountain 国立公園に到着した。ここまでは一緒にオーストラリアに留学に来ていた同級生と旅行も兼ねており、ここで私は突放されることになっている。

荷物を纏めて、事務所へ。ここで、Overland Track 通行用のパスを発券して貰い、国立公園の入場パスと地図を購入。各種パスは、前回の Milford Track とは違ってザックに紐で結び付けるカード式だった。事務所の壁に貼ってあった天気図を確認。低気圧が近づいて来ているようで、明日の晩から 2 日間ほど天気が崩れるようだ。地図を見ると今日・明日の行程上には水場がないようなので、トイレの水を 4L 程汲んでおいた。

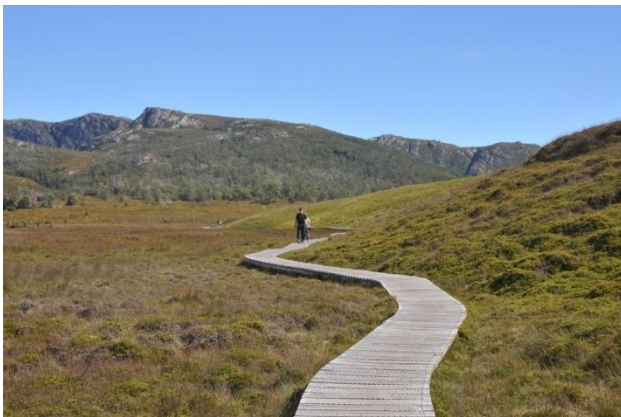
Overland Track の起点でもあるこの一帯は、日帰りハイキング用のコースが幾つも整備されていて、ハイキング装備の人々で賑わっている。色々と期間中世話になった同級生たちに別れを告げて、起点となる Ronny Creek へ向かうバスに乗車。狭い道を走ること 15 分ほどで Ronny Creek に到着。観光客が何名か乗車していたが下車したのは私 1 人だけだった。大きい荷物が目立つ。

スタート地点付近には **Overland Track** を歩く人向けのコース案内板が設置されていたので一読。英語なのであまり頭に入らない。身支度を整えて出発。始めのうちは良く整備された木道歩き。日帰りのハイキング客も沢山すれ違う。南極海から風が吹き出してくるこの地域は、夏のこの時期でも朝晩は寒さを感じるほどに冷え込むのだが、好天のこの日は照りつける日差しが暑い。

時々分岐点があるので、迷わないように注意しながら進む。とはいえきちんとした看板が設置されているので基本的には心配がいらなさそう。30分ほど歩いた所にある **Crater Falls** をしばし鑑賞。この辺りから上りがきつくなり荷物も重くて息が上がる。1時間歩いた所で **Crater Lake** に到着。近くに小さな小屋があったので休憩を挟むことにした。水は綺麗そうで、オーストラリア人の一家が水浴びをして遊んでいた。

再びややきつい勾配を登り切り、一気に稜線まで出る。この後少し岩場鎖場がありそこを越えると **Marions Lookout** だ。ここで眼下に **Lake Dove** が広がっているのが一望できる。正面には明日登る予定の **Mt.Cradle** が聳え、壮観だ。後ろを振り返れば先程の **Crater Lake** が見下ろせて、随分登ってきたものだと実感する。既に日帰りハイキング客は大半が帰ってしまい、静かに景色を楽しむことが出来た。20分ほど休憩して出発。この先は台地に出るので比較的アップダウンのない歩きやすい木道を歩く。夕焼けに染まる **Mt.Cradle** を拝むことが出来るかと期待したが、時間が過ぎるにつれて少しずつガスって来てしまった。小一時間ほど歩いて **Kitchen Hut** に到着。本当はこの小屋の中で泊まる予定だったが、工事中とのことで、付近で幕営出来そうな場所を探して宿泊することにした。水場はどうやらなさそうな様子。水に関しては、そのままで飲めるが念のため煮沸すべきと書いてあったので、明日の行程に備えて水を 1.5L 程煮沸しておくことにした。夕食を終えてからは早々に就寝。

※あとから聞いた話ですが、この一帯はキャンプや小屋に宿泊することが禁じられているそうです。



(左上)Ronny Creek を起点に **Overland Track** はスタート。始めは木道を歩く。

(左) 樹林帯に入り、**Crater Fall** を鑑賞。

(上)**Crater Lake** 付近にて。水は澄んでおり綺麗。



Marions Lookout から Mt.Cradle と Lake Dove を一望。やや陽が翳り始めたのが残念だ。



南面には古大陸らしいスケールのある景色が広がる。



Kitchen Hut に近づくにつれて Mt.Cradle もまた迫りくる。



遠くには Barn Bluff(左)が聳える。あちらはまだ晴れているようだ。

<2日目>

到着した時はさほどでもなかったが、夜になると一帯はガスに覆われて風も強くなってきた。低気圧も近づいて来ていることだし、このまま天候は悪化する一方なのだろうかと不安に思いながら夜を過ごした。

サマータイムの関係上日出は 07:00 頃なので、06:00 過ぎに起床。眠い目をこすりながら外を見ると、正面には Mt.Cradle のシルエットが。どうやら今日いっぱい天気は持ちそう。安心してゆっくり食事等を済ませて 07:00 過ぎにサブザックで Hut を出発。

正面に聳える Mt.Cradle は険しく、何処から攻めるのか良く分からない。登山道はまず始めは礫斜面を直登し、15 分ほど歩いたところから岩場に入る。一見したところ岩がゴロゴロしていてルートはかなり分かりにくい、あちこちに道標となるポールが立っていて迷うことはなさそう。予想はしていたが外見通りで、登りの勾配はきつくかなりハード。息切れしながら登る。途中で双耳峰の中間部で稜線を南側に乗り越え、そこから谷を一つ登り返して山頂へ。結構ハードだったが距離はさほど長くなく、1 時間 1 ほどで山頂に着いた。

山頂からは噂に聞いていた通りの絶景が広がる。朝のすがすがしい空気の中、南面には Barn Bluff や、その向こうに Pelion Plain、そして 3 日後に登る予定の Mt.Ossa までが見渡せて素晴らしい。低気圧が

近づいて来ているからか風がとても強く、時に立っているのも辛くなるような突風が吹きつけるのが少々つらい。山頂付近は岩がゴロゴロしているが基本的には平坦なので、付近を少々散策して写真を撮ったりしていると、早くも1時間近くが経過してしまった。

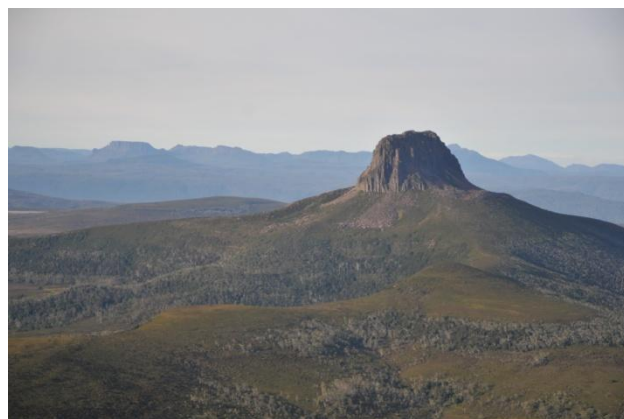
下山路は来た道を引き返す格好になる。それなりにハードなので慎重に時間を掛けながら降りて、1時間ほどで再び **Kitchen Hut** に戻ってきた。ここで荷物をパッキングし直して再び **Overland Track** のメインルートへ。**Mt.Cradle** の麓の道を心地よい日差しを浴びながら歩くこと1時間半ほど。**Barn Bluff** への分岐点に到着した。ここで荷物を置いて往復してもいいのだが、そうすると今日 **Ronny Creek** を出発してきた人に先行されて、小屋がいっぱいになってしまうとまずいと思ったので、先に **Hut** を目指すことにした。一旦谷に下るので時間のロスは大きい、雨の中テント泊も億劫だったので仕方ない。30分ほどで **Waterfall Valley Hut** に到着。まだ誰も到着していないようだ。よさそうな場所に荷物を置いて、昼食休憩などをゆっくりと取っていたら1時間ぐらい経ってしまった。



幕営風景。作業用の小屋の手前にあるすのこの上にテントを張った。



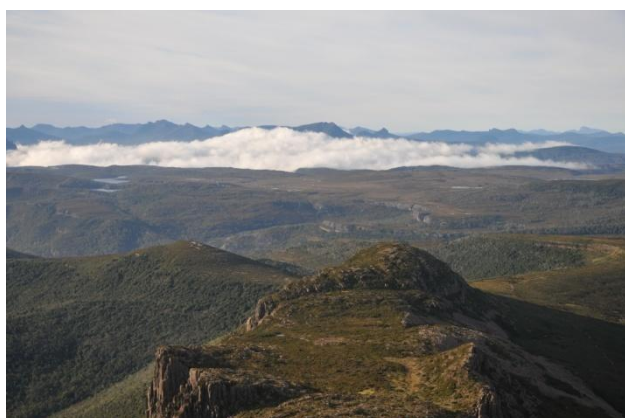
ガレた岩場を登る。足場はしっかりしており見た目ほどきつくはない。



(左上) 山頂付近で振り返る。右寄りのピークは **Smithies Peak** というそう。

(上) 山頂から **Barn Bluff**。日本にはない山容である。

(左) 南面に連なる山々。中央付近に **Mt.Ossa** がある。





天気も良かったので珍しくセルフ記念撮影。右手で触っているのは周囲の山々を示す石碑。



下山中、Lake Dove 方面を見下ろす。



Kitchen Hut は修復中であつた。作業員の方が 2 人ほど泊まり込みで作業を行っている。



Waterfall Valley Hut 付近で Mt.Cradle を振り返る。南面からみると雰囲気が大きく異なる。

サブザックで再び来た道を登り返して Barn Bluff への道へ。もっこりしたピークのすぐ足もとまでは平坦な散策路といった雰囲気か。1 時間半ほどでピークの麓に到着。ここから再びピーク目指して登る。外見から容易に想像できるように、ピーク周辺は本当に急峻で、見上げるような角度である。ここを果たしてどうやってルートが付いているのだかと想像しながら歩く。ガレ場を越えて岩場を乗り越え、やはり息を弾ませながら小一時間掛けて山頂に至る。Mt.Cradle・Lake.Will・Lake Windermere が一望出来てこちらも雰囲気の良い景色である。しかし、この頃から少しずつ天候は下り気味に。風も冷たく湿気を帯びており、えも言われぬような不吉な予感がしたので早めに下山を開始する。それを助長するように、少し歩いたところでカメラのレンズフードが岩に挟まってしまい取れなくなってしまった。今まで 3 年余り使い続けてきたフードなので名残惜しいが、止むを得ないのでそのまま下山を続ける。

先程感じた予感はある程度当たっていたようで、下山を開始してすぐにガスが一带を覆い始め、ピークは直ぐに見えなくなってしまった。ガスの塊から逃げるようにして麓へ戻る。この付近まで来れば歩く分には心配ないが、急ぎ足で来た道を引き返して Waterfall Valley Hut に戻ってきた。

戻ってくると既に 10 人ほどが小屋の中で寛いでいた。ここは先に述べたように、決められた期日に指定された小屋に泊まらなければいけないルールはないので、行程は自由に組める分、最繁忙期には小屋が定員オーバーになることもあるらしい。混雑を心配していたが、そもそも定員いっぱいまで枠が埋ま

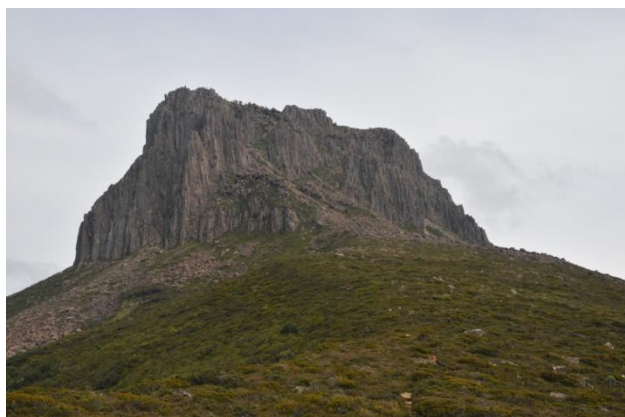
ったという訳でもなく、どうやら杞憂で済んだようだ。その後も何名かが到着し、最終的には 15 人程度で宿泊客は出揃った様子。テントを張っている人も何グループかいた。夕食前には小屋のすぐそばで野生のワラビーが食事をしている姿も見えたのでよかった。明日は **Windermere Hut** か **New Pelion Hut** のどちらかに泊まることになるが、天気次第で決めようと思い、早めに就寝。



WaterFall Valley Hut 付近から **Barn Bluff** を撮影。ここからは鋭いピークに見える。



メインルートからの分岐部起点にて。奥に見えるのが **Burn Bluff**。

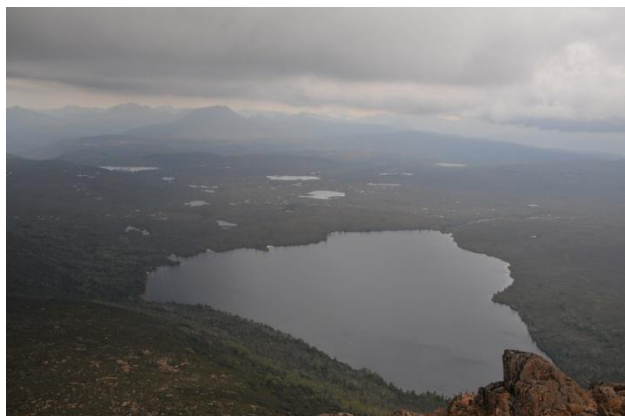


岩場の取り付け点手前にて。



ピークへはきつい斜面を登る。岩がゴロゴロしていて、登りそれ自体の他に落石が怖い。

当たったらひとたまりもないだろう。(上・右)



山頂にて。眼下には **Lake Will** などの湖が見える。遠方には霞みがちだが、**Mt.Ossa** 等の山々も見える。雲がすぐそばまで迫ってきた。





北面には Mt.Cradle。西側から見るのとは大きく違って見える。



下山するとすぐに一帯はガスに包まれた。間一髪セーフといったところだろうか。

<3 日目>

夜半に雨が降り始めたようで、朝方は雨がしとしとと降る天候。昨日は北からだった上空の風が今日は低気圧の接近を反映してか西からの風が変わっている。

徐に支度をして 8:00 頃に出発。小屋の **Ranger** の方に写真を撮影してもらう。今日も昨日に引き続き、木道が良く整備された道を中心に歩く。最初は雨が止んでいたのでも上手く行けば雨具を付けずに歩けるかと思っていたが、そこまで甘くはなくやがて小降りの雨が降り出す。しかも樹林帯を抜け強烈な西風を浴びながらの縦走となる。1 時間ほどで **Lake Will** への道の分岐する所に到着した。天気があまり宜しくないが、折角の機会なので訪れておこうと思い、分岐点から少し離れた **Bush** の中に荷物をデポしてサブザックを取りだし出発。

Lake Will 湖畔までの道のりは相変わらず良く整備された木道。この一帯はもともと池塘が多い場所のようでそこかしこに小さな池が散見される。30 分弱で **Lake Will** 湖畔に到達した。地形的に **Barn Bluff** の陰になるからか、風はさほど強くない。静かなさざ波が湖畔を覆っている。しばし景色を眺めて休憩。早目に出発したからか誰とも遭遇しない。

この先片道 30 分ほどの所に **Inns Falls** と呼ばれる小さな滝があるらしい。ここに来るまではどうしようか判断に迷っていたが、**Lake Will** の湖畔が思いのほか気持ちよかったので湖畔散策を兼ねて歩くことにした。この先の道はまだ整備されていないようで、やや荒れ気味の所を歩く箇所も何箇所かあった。さらに歩くこと 30 分ほどで、**Inns Fall** があると思われる小川に到着した。到着したはいいいものの、**Falls** を見るためのアプローチとなるルートが分からない。取りあえず近くにあった踏跡を辿って川沿いに下ってゆくが、一向に滝は現れずどうしたものかと思う。諦めて引き返している途中にそれらしいルートを見つけた。少し歩くと滝を一望できるポイントへ。かなり足場が悪い場所だったので、写真を数枚だけ撮影してさっさと引き返す。

再び湖畔を散策しながら、1 時間ほどかけて **Overland Track** のメインルートへ。天候はあまり良くないが雨脚はさほど強くないのでそこまで辛くはない。**Moorland** の中を歩きながら、1 時間ほどすると **Lake Windermere** が見えてきた。湖畔を少々眺めながら歩き、少し歩くと **Windermere Hut** に到着。ここから **New Pelion Hut** までは 5 時間ほど掛かる。天気もさほど良くないので今日はここで行程を終えて、午後のはのんびりと過ごすことにした。

低気圧と低気圧の間だったからか、天候はこの後回復し、一時的には晴れ間も見えるように。湖畔を散策して時間を潰すが、夕刻になると再び雨模様。今日も野生の **Warabee** を見かけた。



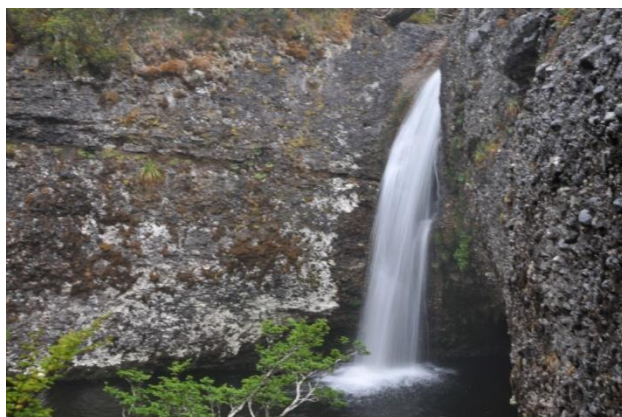
小屋を出発する前に写真を撮影してもらう。天気は悪いが昨日 2 つのピークに登れたので良かった。



湖畔はさざ波が立ち、静か。雨は小ぶりなので殆ど気にならない。



Lake Will 湖畔に。天気の良い日は **Barn Bluff** が見えるが、今日は雲の中。



漸く見つけた **Inns Fall**、スローシャッターで「いただきます」。

(左)縦アングルでの全景。岩場に沿ってカニ歩きしながら、この場所に辿りついた。



湖畔を散策しながらメインルートに戻る。随所に立ち枯れた倒木を見る。



Lake Will 付近には他にいくつかの池塘を抱える。これらを眺めながら歩くのも楽しい。



メインルートに戻りしばらく歩くと、眼下に Lake Windermere が見えてきた。



湖畔の道を散策。この辺りで少し天候が回復してきた。



Windermere Hut に到着。午後は晴れ間も見えるぐらいの天候に。



午後は湖畔に出たり、Hut でガイドマップを読んだりして時間を過ごした。



夕刻には Barn Bluff が一瞬だけその姿を現した。

<4 日目>

今日は New Pelion Hut までの道のりを歩き、ついでにそこからの Side Trip となる Mt.Oakleigh も訪問しようと考えていた。そうすると行程時間は 10 時間ほどとなるので、早めに起床し、7:00 頃に出発。日本で言えば丁度朝 5 時ぐらいの感覚か。まだ同宿の人々は殆どが寝ているか、ようやく起き始めたか

ぐらいの時間である。

雨雲は抜けてくれるかと思ったが、まだ滞留しているようで始めのうちは昨日と変わらず、小雨交じりの天気。ただ昨日より風向が南寄りになった気がする。晴れ間は近いのではないかと思う。

空気が乾燥している日には山火事に注意しなければいけないという **Moorland** の中を歩く。1 時間少々歩いたところで、**River Forth Lookout** と呼ばれる溪谷の展望地に到着。若干逆光気味になるが、確かに溪谷が一望できて中々の眺め。少々休息して、ちょっとした樹林帯の中を抜ける。ここで **Warabee** の群に遭遇。もはや珍しくも何ともなくなってきた。天候の回復を反映してか、正面は **Mt.Pelion West** が少しづつだが全貌を現そうとしているように見える。

この付近から **Frog Flat** まで一旦下り。樹林帯の中を歩きながら少しずつ高度を下げてゆく。下りは 1 時間ほど続いたところで、確かに平坦地に到着。展望はあまり期待していなかったが、**Mt.Pelion East** を始めとする数々の山々を所々で眺めることが出来た。ここで昼食も兼ねて小休止。テント場の指定となっていたが、**Hut** に併設されているようなきちんとした水場、トイレはなく、どちらも付近で現地調達するものらしい。トイレを借りようかと思っていたのだが。

ここから少し登り。過去の記録を見ているとこの付近は足元が悪く靴が泥まみれになって、それを楽しそうに記念撮影している写真を幾つか見たのだが、近年大分木道の整備が進んだようで、まだ設置からさほど時間が経っていない様子の木道が続く。1 時間ほどの登りで **Old Pelion Hut** への分岐点へ。訪問しても良いのだが、**Mt.Oakleigh** への往復を考えているので、翌日に回すことにして **New Pelion Hut** に急ぐ。10 分ほどして到着。**Frog Flat** 辺りから少しずつ雲が晴れ始め、天気は回復。穏やかな晴れ空が広がった。



(左上)**Forth River Lookout** より。少し晴れ間も見えてくるぐらいの天候に。

(左)木々の隙間から **Warabee** を撮影。この付近ではこの後よく見かけた。

(上) **Tasmania** 島全体に言えることだが、植生の境界は極めて明瞭。



Mt. Pelion East(左)、Mt. Ossa(中央雲の中)などの山々を眺める。



Frog Flat から Mt. Pelion West を眺める。いつの間にか雲が晴れてきた。



同じく Frog Flat より Mt. Ossa や Mt. Thetis を望む。場所は少ないが良い展望地が幾つか。



Muddy な場所では着々と木道工事中。昔よりは随分歩きやすくなったようだ。

New Pelion Hut は Overland Track のルート上でも最も収容人数の広い Hut である。広々としていて居心地の良さそうな場所である。空いているベッドに荷物を置いて、天気も良くなったことだしサブザックの準備をして出発。始めは Mt. Oakleigh の取りつきまで 30 分ほど Plain を縦断。途中でハリネズミ様の動物を見た。30 分ほど歩いたところで樹林帯に入る。持っていた地図ではこの先進むにつれてどんどん等高線の間隔が密になるので、どんな登りが待ち構えているのか期待しながら登る。始めは樹林帯の単調な登りが続くが、途中 15 分ほど強烈な登りが続いて、気がつけばピーク付近まで出ていた。南面を向けば Mt. Ossa、Mt. Pelion East など周囲の山々が一望出来て、素晴らしい景観である。

ここから山頂とされている場所までさらに 40 分ほど岩ゴロゴロの区間が続く。南面は切り立った岩だが、北面は緩斜面が River Forth 方面まで続いているので、一帯は想像以上になだらかな景観。ちょっとバテてきたなと思った頃に山頂に到着。同じ日程で歩いているアメリカ人の若者が先行していて丁度引き返すところだったので、お菓子を交換。この日このピークを踏んだのは私とこの若者だけの様だ。

ゆっくり景色を楽しみたいのと疲労回復の目的も兼ねて 40 分ほど休憩。素晴らしい景観なのだが、かなり冷たい風に吹きさらしになるので、写真を何枚か撮影した後は岩の陰で隠れていた。

名残惜しい景色だがそろそろ帰らなければと、重い腰を上げて下山開始。夕方の斜光線が木々や岩に当たり心地よい色を出している。急な下りに注意しながら 1 時間半ほどで再び New Pelion Hut まで戻

ってきた。昨日同宿だった人たちが大体出揃っていて、Mt.Oakleigh まで行ってきたのねと驚かれた。
さすがに疲れたので夕食を取って早々に就寝。明日は Mt.Ossa に登るが、行程自体は短いのでのんびり出発する予定だ。



New Pelion Hut から Mt.Oakleigh を望む。山頂は中央左寄りの岩が飛び出している部分の様だ。



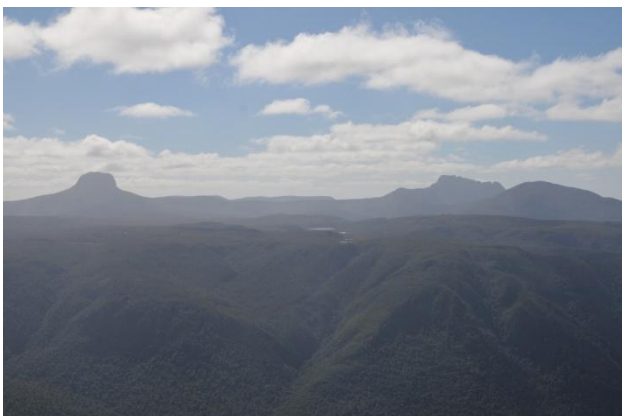
歩き始めてしばし、ハリネズミ様の生物に遭遇。



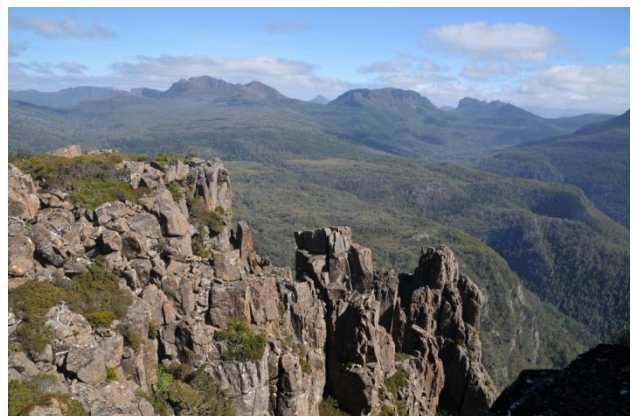
やや西方向に目を向ける。左から Mt.Thetis、Mt.Achilles、Mt.Pelion West のようだ。



急斜面を登り切ってしまえば一気に南面の展望が広がる。中央が Mt.Ossa。



光線が良くないが、北面には Barn Bluff(左)、Mt.Cradle(右)が見える。3日間掛けてよく歩いてきたものだ。



山頂付近から南面は断崖絶壁となっている。足がすくむような光景。



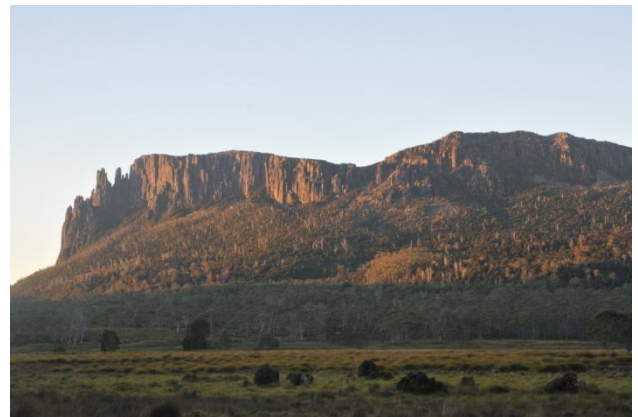
Mt.Ossa を遠景にセルフ記念撮影。風が強くて寒かった。



外見とは裏腹に、山頂北面は緩斜面。歩きやすい道のりだった。



18 時過ぎに New Pelion Hut に戻った。まだ日差しは明るい。



夕焼けに赤く染まる Mt.Oakleigh